

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401028		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム 慈幸苑		
所在地	玉名市横島町横島2493番地1		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	平成30年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は、豊かな自然に囲まれ、四季折々の草花や野鳥の鳴き声、遠く雲仙の山に沈む夕陽に、季節の流れを感じることができる玉名市横島町外平山の中腹に位置している。
 お一人お一人の残された能力を生かし、個々に役割を担って頂き安心して過ごして頂ける心地よい居場所の提供との理念に基づき、家庭的な環境の下、御入居者様の意思、人格を尊重し楽しく安心した日々を送れることを第一に、御家族、法人の協力を得ながら年間を通し、花見や運動会、秋祭りと様々な行事を行い入居者様の“今”を大切にしたい支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入る、と酷暑だったこの夏をおもしろおかしく表現した「今年の夏は命がけ」の文字とともに涼しそうなゴーヤの絵手紙作品が目に入る。室内は平均年齢92歳という高齢にも関わらず、終日聞き漏れる歌声や、笑い声で一日が流れ、長年の入居者と職員の関係性が来訪者がいても変わることなく自然に表出し、普段の生活ぶりがうかがえる。3月に定年退職した職員が、夕方からの入浴介助に引き続き関わるなど、定着した互いの絆が、「言葉にならない声は今わかります」との職員の一言に集約されている。高台にあるホームには、防災無線から伝わる地域ならではの“アサリ貝解禁”の情報などもたらされ、職員は聞き逃すことなく、季節を知らせる楽しい話題として、入居者と共有しリビング内が更に賑わいを見せるとのことである。「気力・体力・努力」の入居者の掛け声に回りも勇気づけられるところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念の掲示を行い、全職員が関わる日誌へも貼付、運営推進会議に於いても理念を伝達し共有、実践に繋げている。	理念を玄関に掲示して、家族や来訪者への啓発とし、運営推進会議などで内容を具体的に掘り下げ、分かりやすい表現にてホームの姿勢を伝えている。また、日々のケース記録に添付することで、職員の意識付けを図り、振り返りの手段として定期的に介護技術の自己評価を実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商店への買い物へ同行して頂き、地元の方々との交流を支援している。	ホームは、開所時より入居者が地域社会の一員として外部との交流を図り、人々と繋がり続けることを重要な課題と捉えている。地域資源を活かした外出や、法人施設との合同行事、地域、保育園・幼稚園児との相互交流を後押しし、町の花火大会には夜間外出も実現している。今年度は福祉体験で来所した中学生とのやり取りも楽しまれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症サポーター養成講座の運営に携わり認知症理解、支援に活かして頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しており、苑だよりを利用し利用者の日常、外出時の様子を報告、委員さん方よりご意見を頂き運営に活かしている。	以前母体施設で開催していた会議を、毎回ではないものの当ホームでも実施しており、参加者は入居者の様子を確認したうえで、会議内容とスライドさせながらより身近にとらえることが出来ている。昨年よりあらたに地域の老人会代表者も同席し、意見の拡充に期待している。	会議内容は行政からの様式にて議事録としてまとめられているが、参加者の声を残すためにも別紙にて添付することでより詳細なものになると思われる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回出席して頂き、ご利用者の状況を伝え、相談や助言も頂くことができている。	行政担当者や包括職員が毎回運営推進会議に参加しており、ホームでの入居者の暮らしぶりを直接見てもらいながら、意見交換や情報共有の場として運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の“鍵なし、眠剤なし、抑制なし”の方針に基づき、全職員周知徹底し実践できている。	眠剤やおむつに頼らず、入居者に自然な眠りや布パンツで過ごす日々を提供する事は、法人全体の姿勢であり、風に揺られる多数の下着がホームの名物でもある。職員は全体研修で拘束や虐待への思いを更に深め、日頃から気になる点や、テレビ・新聞などの事例を通し、短時間でも話し合う場を持つよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や施設外での研修会への参加及び職員間の情報共有もあり、虐待防止の体制ができている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用の入所者様との関わりや勉強会にて学び、必要な支援ができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書及び他書類に目を通して頂きながら説明、納得して頂いている。不明な点、疑問点は何時でも問い合わせるよう声かけしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、面会時にご利用者の状況等伝え、ご家族からの意見をお聞きする場面を作っている。また、法人からも助言頂き運営に反映させている。	職員は、入居者と一緒にゆったりと過ごす時間を心掛けており、会話の中や食事・排泄・入浴介助の中で聞かれた一言などからサービスに繋げている。また、家族の意見については、年2～3回開催される家族会や、面会時に近況を伝えながら要望などを受けている。遠方の家族には電話で近況報告と、安心してもらえるような言葉を添えている。家族との日帰り旅行は家族もゆっくりした中で入居者の様子を間近かに見る事が出来、笑顔や食事を完食される姿に、日頃の感謝を職員へ伝えられるようである。	来訪した家族は、アットホームな雰囲気や入居者本人が嬉しそうに話をしてくれることに安心されている。今後は、職員間で内容を検討したアンケートの実施も有効と思われる。家族がどういうことに安心されているのかなど、職員が当たり前と思っていることにも新たな気づきが生まれ今後のサービスに生かされるものと思われ、取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議の開催、日々の業務の中で意見を出し合う時間もある。提案、意見を反映させている。	必要に応じて都度開催されるホーム会議や、管理者は日頃から職員間のコミュニケーションを大切にしており、意見や提案の出しやすい環境に努めている。また、働きやすく、やりがいを持てる職場環境について、法人施設長とも連携を図りながら職員の定着が保てるようにしている。この春長年勤務し退職した職員も、入浴専任者として引き続きホームに関わっており、入居者とも顔なじみの関係を活かしたケア力が発揮され安心感を与えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休の取得、自己都合による勤務交代にも職員間で協力し合い、やりがいを持ち仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価を行い、振り返り更に質の向上へ繋げている。 勉強会、研修会も開催されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支部連絡協議会へ参加し他施設の方々と意見交換交流ができている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、本人様とご家族様の思いを十分に受け止めることをしている。入所後も日々の様子、本人様の言葉に耳を傾け、安心して暮らして頂ける関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談の折からご家族の思いを伺い、また事前訪問においてもご家族の思いや要望を伺っている。入所後も面会の折、また電話等にて生活の様子や体調等伝えている。他、御家族自身の不安ごとや近況等をお聞きする関係ができています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の思いや意向を十分に把握し早急な対応等要する場合は、他サービス事業所の利用等アドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「～してあげる」ではなく「～手伝います」の姿勢で接しており、助け合いながら馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様、ご家族様、職員は大きな家族と捉えている。面会の折には努めてゆっくり時間を持ち本人様の様子を伝え、また家族の不安等もお聞きするよう努め、本人様、ご家族様との話題の提供も行い、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人のデイ利用者の利用日に合わせ外出支援。 地元商店への買い物外出等支援している。	地元の職員が多いホームでは、方言を交え会話の中で得意だったことや習慣などの収集に努めている。また、顔なじみの関係となった地元スーパーの利用や、法人デイに出かけ知人の利用者との交流も耳慣れた方言が入居者に安心感を与えている。防災無線から聞こえるアサリ漁に関する放送時には、以前は豊漁だったことやアサリを使った料理など昔話に花が咲くような場面作りが行われている。十五夜や里芋の葉にたまった露を硯に入れて字を書いた七夕など、入居者が語る思い出話が途切れず飛び出す光景があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席に着かれていない入居者様を気遣われたり、うまく意思表示がされない入居者様を気遣われている。 話し合い協力しながら食事作りを進められる姿も多い。トラブル発生とならぬよう見守り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後も訪問し、会話の時間を持つように努めている。また退所後の来苑もあるときには利用者様を中心とし、家族との会話の時間を持ち、サポートできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が希望する生活、好まれる暮らしのスタイルを会話や行動から気持ちを把握し、スタッフ間でも情報共有し入居者様の気持ちに沿えるよう支援を行っている。	職員は一日の流れの中に、入居者とゆっくり関わる時間を作りながら、思いを聞き取るよう努力している。長年の関係は入居者が言葉にされなくともわかると語り、同じ言葉の繰り返しにも、うなずきながら安心されるまで寄り添う様対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問で、ご利用者様の生活歴などを把握し、馴染みの暮らし方などの情報を頂き安心できる生活支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の暮らしを詳細に記録し、生活リズムを把握してスタッフ間でも情報共有しながら現状の生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間での状況把握を行いながら、必要時にはホーム会議を実施し、入居者様のケア改善に取り組んでいる。また、家族面会時にも現状とケア改善への取り組みへの説明を行っている。	新たに入られる方には、入居前の事前訪問で本人・家族の意向をしっかりと把握したうえで、入居者の力を最大限引き出しながら、ホームにできる支援をプランにあげている。個別のケース記録には、理念をはじめプランを折り込み、職員は総合的に確認、判断しながら支援にあたっている。家族には十分なプラン説明が行われており、遠方の方へは電話にて分かりやすく説明し、必要があれば手紙でも内容を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、入浴時、夜間帯などの様子をケース記録に詳細に残し情報共有できるようにして、日々のケアに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊、外出などの申し出にも対応し、その時々を大事にする支援を行っている。また、入居者様の体調等をみながら外出行事など法人の協力を得ながら対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小中学生との交流もあり、当施設の行事には地域の各団体のボランティア参加や毎月のボランティアとの交流も図れており、豊かな暮らし支援に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携も確立しており、月2回の嘱託医の往診もある。急変時もその都度対応できる体制がある。専門医の受診が必要な場合、ご家族の都合がつかないときは苑にて対応できる体制を取っている。	入居時に嘱託医の説明を行っており、本人・家族の同意のもと全員がかかりつけ医として定期往診を受けている。専門医の受診は基本的に家族対応としているが、ホームでも柔軟に応じている。日頃の健康管理はバイタルや全身の状態を見ながら行っており、気になることがあれば法人看護職員への相談など連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である特別養護老人ホームの看護師による医療連携が整っており、日常の変化や異常時に素早い対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合、認知症の進行するケースがあり、ご本人の気持ち、ご家族の気持ちを踏まえスタッフが病院へ出向き、馴染みの顔を見せることもある。病院関係者と情報交換を密に行い、早期の退院へ繋がるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り文書にご記入頂き、ご本人の状況に応じて、ご家族と話し合いを持ちながらご本人・ご家族が望まれる最期を迎えられるように取り組んでいる。	入居時に、看取り指針にそってホームの取組を伝え、その段階での気持ちを書面で聞き取り、その後も状態変化時などに確認を行っている。殆どの方がホームでの最終を望まれており、職員は本人・家族の思いに応えるため日頃のケアに力を注いでいる。また、法人全体の看取り支援に関する研修会に参加し、出来得る最良の支援について気持ちを新たにしている。この2年間でギリギリまでホームで対応し医療機関で亡くなられた方、嘱託医の協力によりホームで看取り支援を受けられた方がおられる。	看取り支援時は、ベッドの中であっても他の入居者の声や雰囲気伝わるような環境を作り、ホームの一員という気持ちを持ってもらえる支援が行われている。今後も本人・家族の望まれる最終の支援に取り組まれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ連絡、報告の徹底ができており、医療連携体制がある。 勉強会において急変時の対応について習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、避難訓練等も消防署立会いのものと年2回行っている。	消防署立ち合いの下年2回、防災、避難訓練を実施し、地元消防団とは災害時対応の協定を結んでいる。火災は火を出さない事が一番であり、コンセントの埃をはじめ安全チェックを行っている。災害時の備蓄は、リストを作り職員間で周知している。	地元消防団とは協定を結んでおり、今後は実際ホームへ足を運んでもらう機会を持つ事も有事の際に生かされたいと思われ、検討いただきたい。また、備蓄リストについては家族へも伝える事で安心に繋がると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、各入居者様に合わせた声かけを行っている。また、排泄の誘導は他者に分からないように配慮に努めている。	入居者一人ひとりのこれまでの生活を可能な限り継続できる支援に努めている。呼称は希望も聞きながら苗字や下の名前にさん付けで対応している。排泄時の誘導もさりげなく、また、失敗して自ら下着を洗おうとされる方には、尊厳や本人の遠慮される気持ちを察しお礼の言葉を伝えている。現在は全員女性の入居者であり、整髪や衣類の選択をはじめ女性ならではの身だしなみをサポートしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望を表現しやすい空間や個々に合わせたコミュニケーションを図りながら、自己決定できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調や気分、状況を見て声かけを行う。また、その日をどのように過ごされたいのかなど、入居者様の気持ちに沿えるような生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様と共に季節に合った服選びを行っている。理髪では定期的に来苑される理容サービスをご利用して頂いている。行事の際は化粧して頂くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々とその日のメニューを決め、入居者の方々のできる範囲で作業して頂くようにしている。また、下膳や台拭きも行っていたり、一緒に食事・片づけを行っている。	献立は、入居者と一緒に希望や旬を取り入れたものをその日に決定している。入居者は混ぜご飯や煮しめ、味噌炒めをよく好まれるようである。敷地内の菜園では季節ごとの野菜が育ち、皆で収穫を楽しみ食材に活用されている。入居者は食材購入や炒め作業、盛り付けなど出来る事で食への関わりを持ってもらっている。職員も見守りを行いながら、同じものを一緒に摂ることで、思いを共有できたり、味の評価や昔話などに花が咲く和やかな食事風景であった。	地元のスーパーで入居者も一緒に購入した食材を使った手作りの食事は好評であり、家族の安心にも繋がっている。今後もホームならではの食事支援の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人の水分補給量を把握し、個々のその日の体調などにより、水分の代替をしたりして調整を行っている。1日の必要量がトータルで補給できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い歯磨きして頂いている。気分が向かず拒否される場合はタイミングを見計らい職員を変えるなどして口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導ノートを活用し、それぞれのパターンを把握しトイレでの排泄支援に努めている。 尿意曖昧な方のサインも見逃すことなく、プライバシーに配慮した声かけでトイレ内での排泄ができておられる。	昼夜を通して布パンツでトイレでの排泄を支援し、必要に応じてパットを併用している。夜間はトイレや安全面からポータブルトイレの使用が行われている。排泄の誘導や声掛けはプライバシーに十分配慮し、表情やタイミングを逃さないようにチームワークで取り組んでいる。入居者は自室の近くなど使い慣れた場所があるが、使用が重なるような場合は、了解を得ながら別のトイレへさりげなく誘導している姿が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の排泄の状態を把握し、十分な水分補給、食物繊維、海藻類をとり入れた食事、きなこ牛乳の提供等、また廊下での歩行運動促し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	開設以来、夜間入浴を取り入れているが、本人様の希望で日中での入浴へも柔軟に対応している。お一人お一人のペースに合わせた入浴を楽しんでいただいている。	月曜から土曜まで夜間入浴の準備を行い、殆どの方が週3回以上入られ、中には毎日の方もおられる。現在長年勤務した職員が、入浴専任として勤務し、支援にあたっており、民謡や演歌を歌いながら一人ひとりの気分を盛り上げており、更に入浴が楽しみな時間となっている。拒否がある方には毎日声をかけ、無理強いせず、本人の意思を尊重し、自身で清拭や着替えを行ってもらっている。	たっぷり湯を張り、脱衣場を含め季節に応じた室温管理により気持ちよく入れるようにしている。今後もシェーバーなどの安全管理にも努めながら、入居者の楽しみとなる入浴支援の継続に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活のペースに合わせた支援を行っている。リビング和室では他者を気にせずゆっくりとくつろげる様な空間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の確認、または変更あった場合は口頭でも伝え、情報共有できている。服用の際は重ねて氏名確認行い誤薬の防止に努めている。また、服用の作用についても症状等記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞購読、日記記入、読経と今まで習慣とされてきたことを継続して行ってもらい、楽しく今を過ごされる支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調に合わせた外出を行っている。散歩を好まれる入居者様とは状況に応じ個別対応も行い、楽しんでいただいている。季節ごとの花見、家族との日帰り旅行、花火大会と地域の方々の協力を頂き、外出支援している。	気候や天候の良い日は、努めて戸外に出る機会を支援している。菜園の手入れや収穫、庭先での日光浴をはじめ、地元スーパーへの買い出しは顔なじみの店員との会話も楽しみな時間となっている。桜や観光地にもなっている菖蒲・藤の花見、地域の花火大会など継続して出かけている。家族会主催の家族旅行は、以前のように一泊は困難であるが、温泉や懐石料理を楽しむなど日帰り旅行として継続されている。	外出への希望は個々に応じて異なることから、今後も身体状況にも配慮しながら出来る時間に個別で対応していきたいとしている。今後も外出への取組について、家族へ報告を行いながら、一緒に出掛ける機会を持ってもらい、安心に繋げていただきたい。取組みが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方がおり、購入されたいものがある場合は、スタッフへ依頼。紙幣の種類も認識できておられ、共に買い物へ出かけ欲しい物の買い物ができておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにお住まいのご家族へ、苑だより等をお送りする場合はお手紙を書かれるよう声かけしている。 また、電話をかけられる際も了解を得て電話対応し、正確に内容が伝わるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、行事ごとの写真を掲示し、ご利用者の楽しみとなっている。夏場のリビングの窓には緑のカーテン(ゴーヤ、朝顔)を設え、心穏やかな空間づくりに努めている。	共用空間には、担当者を中心に季節の絵手紙や旅行・外出時の写真をはじめ、体験学習の生徒によるカレンダーなどが掲示されている。ホームから望む雲仙や眼下のミカン畑など眺めの良さは、本人のみならず、来訪した家族も安心の言葉を発せられるようである。食堂ホールや廊下は換気を兼ね、出来るだけ自然の風を通すようにしている。例年は夏でもクーラーを使用する機会は少なかったが、今夏の猛暑には午前中より適宜クーラーを使用したようである。掲示されていた絵手紙にも、夏の暑さを題材にされていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内ソファ席、食席の工夫をしそれぞれ心地よく過ごして頂いている。 どうしても他者との会話が難しい方は職員が仲介に入り寄り添い安心して過ごして頂く居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の持込や写真を飾られたり、本人、家族様の思いを反映できている。本人様の様子を見て、使い勝手が悪そうであれば家具の位置を変更し居心地良く過ごされるよう支援している。	入居前の自宅訪問時や、入居の際に持ち込みの品について説明を行いながら質問に答えている。クロゼットや洗面台が備わっており、入居者は持参した家具や家族の写真などに囲まれ安心して自室での時間を過ごされている。家具やベッドは身体の状態や使い勝手などに応じ位置を変更する他、荷物が多いと不安になる方には、最小限で環境を整えている。衣替えは職員が中心に行っており、室温管理や冬場の湯たんぽなど季節に応じて居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表れ、目印を活用しスムーズな移動を支援している。		